

## うまず たゆまず

「今週の倫理」は創刊から1000号の節目を迎えました。今月は、本紙に関連した内容や、「千」「1000」という文字や数字にちなんだ法人会の活動を取り上げます。



え・たむらかずみ

十月のテーマ

創刊千号！

## 前

号では、本紙千号にちなんで、創刊の経緯を振り返りました。今週は「今週の倫理」の知られざる(?)内情について紹介しましょう。

## ①筆者は誰？

「今週の倫理」の執筆は、倫理研究所の研究員が担当しています。時代により、数人が持ち回りで担当したり、一人が執筆を担っていたこともありましたが、現在は、法人局二十数名の研究員が順番に執筆しています。こうした経緯から、第一号より、署名制ではなく「法人局」名義の発行となっています。研究員が書いた原稿は、編集担当を交えた推敲を重ねて、全国の倫理法人会に発信しています。

## ②活用法あれこれ

先週、嬉しい報告がありました。千号が発行された日に行なわれたある県の役員会で、相談役が、分厚いファイルを三冊持参されました。そこには「今週の倫理」の一号から九九九号までが綴じられていました。「ちょうど記念の号が出たので持ってきました」とのこと。

日々、講話をする際に活用し続けているとのこと。びっしりと付箋が貼られ、書き込みされたファイルを手にした研究員も、筆者として身の引き締まる思いがした、とのことでした。

本紙の活用法としては、単位倫理法人会で発行する週報などと一緒に印刷して、モーニングセミナーで配布するケースが多いようです。また、「倫理法人会案内」や「職場の教養」と共に本紙を持ち歩き、普及に活用している方もいます。一枚の紙面で、純粹倫理の概要をコンパクトに伝えられるところが魅力的だとのこと。す。

## ③テーマについて

十九年前の創刊時は『万人幸福の菜』十七カ条や「七つの原理」を順に解説していました。その後、週ごとに別個の内容だった時期が続きましたが、一昨年から、毎月テーマを決めて発行しています。第一週には、そのテーマに沿った故・丸山竹秋(倫理研究所二代目理事長)の文章を掲載しています。「この記事を読むのが楽しみ」と

いう反響も多く、今後もしばらくこの形を継続してまいります。

最後に、「続けること」について、丸山竹秋が綴った一文をもって、この「千号月間」を締めくくりましょう。これからも引き続き、ご愛読のほどお願いいたします。

うまず たゆまず

よいことをつづけてやってゆく。するとやがて弱々しいものがつよくなり粗末なものが

りっぱになり未熟なものでも円熟に近づいてくるのです。

続けることは安易にはできない。いやなことにもぶつかります。

つらいことにも 出くわします。

それが 三度や五度ではありません。しかし 節をつけたようにして

一年ごと二年ごと……そして石の上にも三年といいますが

二十年近くも 休まずにつづけてくると

人には わからない苦勞のなかに人にも わからない素晴らしい喜びが

いっぱい 私達を包んでくれているのです。

(月刊『新世』昭和39年6月号より)